

HPVワクチンって何？

子宮頸がんを予防するワクチン

ヒトパピローマウイルス(HPV)には200以上の種類(型)があり、そのうち15種類が子宮頸がんの原因になります。現在日本において公費で受けられる主なHPVワクチンは9価(シルガード®9)です。



9価
(シルガード®9)

HPV感染の80～90%を防ぐ



副反応はないの？

HPVワクチン接種後には、他のワクチン接種と同様に接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。また、まれに重いアレルギー症状や神経系の症状が起こることがあります。

【症状の発生頻度】 例えば 9価(シルガード®9) の場合

50%以上	疼痛(痛み)*
10～50%未満	腫脹(腫れ)*、紅斑(赤くなる)*、頭痛
1～10%未満	ふわふわと浮いたように感じるめまい、悪心、下痢、そう痒感(かゆみ)*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

*接種した部位の症状

接種後、 体調の変化が現れたら

接種後に気になる症状が出たときは、まずは接種を行ったお医者さんに相談してください。

詳しくはこちら



HPV予防接種後に症状が生じた方に対する相談窓口のご案内

(今年4月1日時点で15歳) 高校一年生相当の女の子 と保護者の方へ

公費による
HPVワクチンの接種を希望する方は
高校一年生相当の年度の
**3月末までに
計画的に接種すること**
をご検討ください。



小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に

子宮頸がん予防のためのHPVワクチンの
公費による接種を提供しています。
高校1年相当(今年4月1日時点で15歳)の女の子は、
公費による接種期間の最終年度にあたります。

公費による接種を希望する場合は、
遅くとも今年の9月末までに
1回目のワクチンを接種する必要があります。

場合によっては最短4か月で接種を完了することもできます。
その場合は、遅くとも今年の11月末までに1回目のワクチンを接種する必要があります。
医療機関にご相談ください。

HPVワクチン接種は合計3回で、完了するまでに約6か月かかります。
15歳未満で9価HPVワクチンを接種した方は、合計2回で完了する場合があります。
詳しくは住民票のある市町にお尋ねください。

公費による接種が終了する来年の3月末は、予約が取りづらくなる
可能性もありますので、余裕をもったスケジュールでの接種を
ご検討ください。

接種について

住民票のある市町からのお知らせをご覧ください*。
接種を希望する場合、事前に医療機関へご連絡ください。
※進学や就職などで引越しをされる方は、原則、引越し先の寮・アパートなどが新しい住所になります。忘れずに住民票を移してください。

接種可能な医療機関や
市町問い合わせ先など詳しくはこちら



山口県のホームページでは、
HPVワクチンに関する情報を
ご案内しています。

山口県 HPV

検索

大切な命を守るために。

小6から
けい
子宮頸がん予防
HPVワクチン

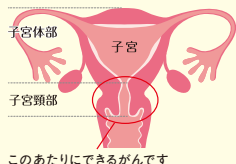
いま、未来のためにできること

山口県 (4月～8月用)

子宮頸がんって何？

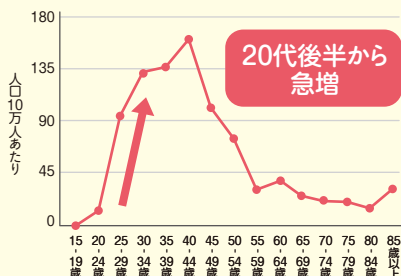
ウイルス感染が原因のがんです

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、主に性交渉によるヒトパピローマウイルス(HPV)が原因です。



このあたりにできるがんです

山口県の子宮頸がん罹患率(2021年)* (上皮内がん含む)



自分には関係ないと思ってない？



山口県の妊娠、出産、子育てする年代に多いね

山口県の女性
[平均]初婚年齢
29.0歳

山口県の第一子
[平均]出産年齢
29.8歳

※令和5年山口県の母子保健

がんの発見が遅くなると治療で子宮を失い妊娠ができなくなってしまう場合もあるんだよ



一生のうち子宮頸がんになる人

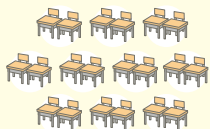
1万人あたり125人
2クラスに1人くらい



◎1クラス約35人の女子クラスとして換算

子宮頸がんて亡くなる人

1万人あたり34人
10クラスに1人くらい



子宮頸がんにならないためには早めの予防が大切！

HPVワクチン接種で予防



子宮頸がんの進行

ヒトパピローマウイルス(HPV)に感染しても、ほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。

一次予防 [HPVワクチン] 感染そのものを防ぐ

正常な細胞



HPVに感染



子宮頸がん検診で予防



二次予防 [子宮頸がん検診] がんの芽を早期発見・治療

前がん病変 (異形成)



がん細胞



感染から数年～十数年かけてがんになる

ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐことで、**将来の子宮頸がんを予防する**効果が期待できるとされています。

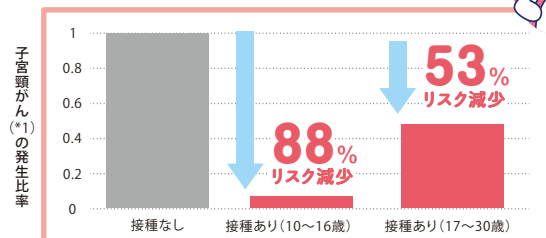
定期接種

小学校6年～高校1年相当

の女の子は公費により接種を受けることができます。

詳しくは裏面へ

若いうちに接種すると効果的なんだ



HPVワクチンの接種有無(*2)と接種年齢

スウェーデンにおけるワクチン接種なしの子宮頸がん発生率を1とした場合、それぞれの年代で接種した場合の子宮頸がんの発生率を示しています。

(*1) 浸潤性子宮頸がん (*2) 接種ありは1回以上の4価HPVワクチン

定期的な検診を受けることで、**子宮頸がんの早期発見はもとより**前がん病変で発見してがんを防ぎます。

20歳になったら、**2年に1回、**子宮頸がん検診を受けましょう

HPVワクチンで防げない種類(型)のヒトパピローマウイルス(HPV)があるため、ワクチンを接種していても定期的な検診が重要です。子宮頸がん検診では、「がんになっていないか」「がんになりそうな細胞はないか(前がん病変、異形成)」について調べます。

※前がん病変が見つかったら、経過観察でよい治療が必要かについて、担当医とよく話し合ってください。

後悔しないよう家族でみんなで話しあおう！

